

平成30年度 第2回八雲町熊石地域審議会議事録

○日 時 平成31年3月26日(火) 18:30~20:30

○場 所 八雲町熊石総合支所2階会議室

○出席者 地域審議会委員：6名

加我寿美恵委員、安住 真委員、飯田 浩委員、桂川裕樹委員、棚田正幸委員、手塚裕樹委員

(宍戸英委員、干場敬亮委員、三木洋委員欠席)

行政側：岩村町長、萬谷副町長、北川住民サービス課長、田村産業課長、荒谷熊石消防署長、桂川熊石国保病院事務長

事務局：野口地域振興課長、成田地域振興課長補佐、田中まちづくり推進係長

○傍聴者 傍聴者無し

(町長あいさつ)

みなさん今晚は。忙しい中、平成30年度第2回目の地域審議会への出席、ありがとうございます。

来年度予算の説明であり、八雲町の予算議会で話した内容でありますけれども、一般会計では約140億、特別会計では約80億の予算が通り、4月1日から新年度に向けて執行いたします。

説明しながら、意見を大切にしながら熊石の活性化を目指して頑張っていきますのでご協力をお願いします。また、年号が変わる大きな変化の年であるため、八雲町も新しい時代に向かう年であります。職員に対しては、前例のない世の中に進んでいく我々は、前例のないことに挑戦していく年であり、前例がないことで活性化をしていくという思いで八雲・熊石の職員が一丸となって、萬谷副町長もいますので、4個の地域のために頑張っていたきたいと思います。

【会長】

それでは議事に入りたいと思います。

【野口地域振興課長】

熊石総合支所予算の概要説明に入ります。

事前に資料1・2を送付しましたが、本日、資料3・3-1・3-2・4を配布しておりますので、ご確認いただきたいと思います。

平成31年度、八雲町全体の予算規模としまして、特別会計・企業会計の合計286億3758万円となっており、前年度対比6億516万円、2.2%の増額となっております。また、一般会計は140億3400万円、1.4%のぞうがくとなっております。

基盤となる一般会計が、歳入では自主財源の主となる町税が17億5326万延、行政サービスの一定水準の確保及び地域間の税源の不均衡を調整する地方交付税、51億5715万円で、この財源だけでは財政運営できないことから、繰入金としまして、貯金21億7769万円を取り崩して充てるほか、建設事業の財源となる町債8億5210万円を借り入れ、予算編成をする次第でございます。

歳出、交際費の償還費14億3289万円は、歳入の借り入れより小価格のほうが多く、借金の残高が減少していく状況であり、平成28年度をピークに減少している。

基金の残高について、平成27年度64億円は、ふるさとおうえんきふきんの事務事業の見直しにおき

まして、平成 30 年度末には 90 億円を超える見込みであります。

主な事業の紹介としまして、熊石にかかわりのないものとなりますが、総務費で本庁舎の新役場庁舎等整備事業に 1188 万円、教育費で新しい町史の編纂事業ということで 317 万円の予算となっております。

熊石総合支所の予算として、介護保険特別会計については保健事業勘定分とサービス事業勘定分併せて 963 万 1 千円増額の 8503 万 3 千円の計上、簡易水道特別会計については、平成 31 年度予算額 1 億 6881 万円となっております。

一般会計から特別会計合わせまして 11 億 698 万 5 千円が熊石総合支所の予算であります。

【桂川熊石国保病院事務長】

国保病院は建設から 48 年経過しており、老朽化が著しいことから、国保病院建替基本構想・基本計画の策定業務にて 572 万円の計上となっております。その他のものについては、医療機器や P C の補填に 357 万 3 千円を計上しております。

【野口地域振興課長】

次に一般会計となりますが、本年度の総額といたしまして 8 億 5314 万 2 千円となっております。

前年度対比としまして 2 億 2723 万 4 千円、36.3%の増額計上となっております。

主な要因としましては、民生費のほうで、熊石保育園新設整備事業が 1 億 5965 万 2 千円の増額、消防費のほうで、積載車及び救急車の整備費用により 5300 万の増額となっております。

総務費のほうで、札幌大谷大学との連携事業である域学連携推進事業として 64 万 6 千円の計上となっており、美唄市・積丹町・八雲町の 3 市町の組長・町長がそろった中で現状の町づくりフォーラムを実施したいという趣旨と、それに合わせて観光 P R、物販や演舞などを披露しながら域学連携を推進する。

また、ハザードマップの作成事業が、平成 25 年度に配布しており、土砂災害を含んだハザードマップを作成および配布する計画となっております。

【北川住民サービス課長】

衛生費について、介護保険事業特別会計操出金について、熊石デイサービスセンターの費用不足分を一般会計から持ってくるのが一つ、介護保険事業を展開していますので、それを一般会計から持ってくるということで 2275 万 3 千円を繰り入れします。

輸送サービスですが、要介護高齢者に対して社会福祉協議会に委託していますが、病院までの搬送で 195 万 2 千円、財務内訳の 1600 万円その他の部分は、ふるさと応援寄付金を財源としております。

一人暮らし高齢者保護事業について、独居で不安等持っている方に対して、ヘルパーが週 2 回 15 分程度で安否確認や状態確認を行うものとして 103 万 2 千円

老人クラブ運営助成金が 19 万 2 千円。

熊石・相沼保育園の統合に伴い、熊石小学校敷地内に新たに整備する保育園の工事費として 1 億 5965 万 2 千円。現在の定員が 45 名おり、定員を 30 名程度にし、保育園は一回り小さくする予定であります。

患者輸送バス管理費について、運行経費として 490 万 2 千円

斎場整備として 9 万 9 千円。

国庫補助金の繰り出し金 1 億 8074 万 5 千円、熊石簡水管理会計操出金で 2063 万 8 千円

南部檜山衛生処理組合の負担金 3536 万 5 千円。ゴミ処理費用として 3159 万 5 千円の負担金の支出。

衛生処理費、し尿汲み取り 377 万円の支出、粗大ごみ運搬委託料 95 万 1 千円

【田村産業課長】

労働費について、緊急収納対策費 熊石地域の町有林の道の整備事業 324 万 2 千円

実施方法としては、山越郡森林組合と協力し、熊石地区失業者 70 歳未満を対象都市実施予定

有害鳥獣駆除対策費について、ハンター出動手当が 120 万 4 千円

サケマス養殖事業の補助金、今までは町村負担分を漁協が支出していたもので、それを町が負担することとした。

熊石地域水産試験研究施設推進事業について、昨年 12 月に完成した水産試験研究施設を北海道大学水産学部と共同でダルス等を栽培する試験事業であります。職員としては、臨時職員を 1 名、協力隊 1 名、元水産課長を嘱託として採用し、合計 3 名を起用。ダルスは高タンパクで栄養素の高いものであり、将来的には販売していけないかと検討している。北大生は延べ人数 200 名程度来る見込みとなっております。

実施設計や建設等に係る経費で約 7000 万であり、684 万 3 千円は運営に係る費用となっております。

【荒谷熊石消防署長】

積載車が 25 年経過したことから更新します。また救急車も 14 年が経過したことから更新します。函館等へ救急搬送する車両の更新を計画しております。

救急救命救助道具整備事業について、心肺停止等になった方への質の高い救命措置を行えるよう本部で一括購入し、熊石へ一つもらうこととしております。

【野口熊石教育事務所長】

教員住宅解体事業について 968 万円の措置としております。本年度は泊川・相沼・折戸の古い物件すべての解体としております。

熊石小学校グラウンド改修事業にて 738 万 1 千円。芝の部分をはぎ取り土にするのと同時に暗渠が入っていないため敷設する。

中学校屋内運動場屋根葺替事業 1672 万円

続いて簡易水道会計に入ります。

層排水管の敷設事業。下水道に絡んでの鳴神地区と鮎川地区の 2 か所を予定している。

浄水場整備事業 822 万円

【桂川熊石国保病院事務長】

備品の購入について

手動式除細動処置の外、内視鏡や胃カメラを 1 台、受液ポンプを 2 台、その他機器を 5 台とし、合計 1 億 8474 万 5 千円

操出金 1 億 8074 万 5 千円

救急施設運営に係る一般会計負担金 4900 万 4 千円

町からの補助金等で 8000 万円

【会長】

事務局から説明がありましたが、ただいまの説明に何か質問はありませんか。
ないようですので、私から一つ。北大生はいつくらいに来るのでしょうか。

【田村産業課長】

調査目的で入ってくるため、時期や人数はまだはっきりとはわかりませんが、200 人が一気に来るのではなく、年間を通した延べ人数が 200 人となっております。また、来られた学生について、素泊まり料金を町で負担することと考えております。

【委員】

民生費の一人暮らしの高齢者事業というので、ヘルパーさんが独居老人の方のところに訪問しているということですか。あと、民生委員さんの仕事って実際のところどういう仕事しているのか。

【北川住民サービス課長】

この事業は定期的に入ってもらう形になるが、民生委員さんは地域に 1～2 人いるが、お金を払って頼んでいるわけではないので、自分たちの都合のいいときに声かけなり、訪問なり行っている。

【委員】

町内会でも独居老人とかいるのでちょっと確認でした。

【北川住民サービス課長】

熊石の方で今、心配しているのが災害の際に避難させる場合に、もう総合支所職員だけでは無理だということ。そうしたときに町内会や民生委員など地域の力を使って、まずは一時避難してもらおうというのが基本となる。そういった体制作りに取り組んでいかなければならないと考えている。

【会長】

老人クラブ運営費について 200 人×360 円とは一人当たりの保険料とかですか。

【北川住民サービス課長】

道から補助金をもらっており、1 人当たり 360 円になっている。

【委員】

予算の比較として 30 年度と 31 年度ありますけど、それぞれの事業別の比較があれば、前年度の増減がわかりやすい。

【野口地域振興課長】

わかりました。

【委員】

教育費の中に、新八雲町史編纂事業とあるのですが、どういった事業ですか。

【野口地域振興課長】

旧八雲町、旧熊石町が合併し、旧熊石町においては昭和62年度に昭和60年度までの内容で編纂済みであるが、昭和61年から平成17年までのものについては年表形式で作成しており、今回は合併後の平成17年からの歴史を編纂して残したいというものであります。熊石・八雲統一した一冊の冊子となる3か年かけて策定していく。

【萬谷副町長】

317万円は町史編纂のために雇う臨時職員の費用です。

【会長】

なければその他に。

【野口地域振興課長】

先の地域審議会でも出ました教職員住宅の売り払いの関係で、熊石総合支所だより12月号でまず、熊石地域限定で周知し、3軒のうち2軒落札し、4月から入居できる手筈となっています、残り1軒についても、前週の金曜日に事前説明会を行い、入札を行う予定であり、3軒全て売れるだろうという見込みであります。また、備品の売り払いについてもまた改めて5月でも2回目を実施したいと考えています。

【会長】

その他全体を通して何かありませんか。

【委員】

熊石小学校グラウンドや中学校の体育館の屋根の吹き替えとか、色々やっただけでいるので、熊石のことも考えていただいているということで変わってきたなという印象がある。

【委員】

以前はお年寄りに一杯色々やってくれるけど若い人にはやってくれないイメージがある。学校の給食費が無料になったり、幼稚園も安くなったり、医療費も18歳までになるからだいぶ若い人にとってもいい環境になってきた。あと、もしあれだったら厚沢部町では町営の塾があるけれども、熊石でも個人でやっているところもあるが、厚沢部みたいに考えてみてもいいのではないかな。厚沢部町では2名臨時職員として採用し、中学3年生を対象にしてやっているらしい。塾って大事ではないか。たとえば協力隊など活用してはどうか。

【委員】

町営で安くやってしまったら、現に塾をやっている人が困るのではないかな。そもそも、塾に行かせたい人は既に行かせていると思う。

【委員】

行かせたくても行かせられない人もいる。現にお金もかかることだし、厚沢部では学力向上のためにやっているとのこと。

【岩村町長】

事務方で研究してみしてほしい。

【会長】

スプレー缶のニュースが出ていたけど適切な処理はどうしたら。

【北川住民サービス課長】

この間、南部檜山衛生処理組合の会議に出席してきたが、札幌の事故を受けて、国の方から指導があり、現在対応策を練っているとのこと。収集車にスプレー缶だけを入れる容器を設置して対応しようという計画がある。今後は、スプレー缶に穴を開けずに改修する方向で検討している。

【会長】

収集の方法などが決まったら広報などで周知してほしい。

【北川住民サービス課長】

収集車で改修する際に火災が発生する恐れがあるので、現時点では引き続き、穴開けて廃棄してほしいとのことだった。

【会長】

事務局の方で何かありますか。

【野口地域振興課長】

皆さんの任期が2年ですから今年の11月まででございます。基本的に全員留任で更新する予定で考えておりますが、審議会の方は10月までにはこのメンバーで1度開催したいところですので、町の方の案件など考えながら、会長さんと協議を行い、設定したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

【委員】

人数はこのままで？

【野口地域振興課長】

人数は平井委員が途中で抜けられたのですが、出来れば人数は10人くらいで女性の方も入れて考えていきたい。

【委員】

この地域審議会も熊石と八雲が合併するにあたって、熊石の意見も取り入れてもらうという形で出来たと聞いている。もう、合併して10年もたったので、こういう審議会はどうかかなと思う。

【岩村町長】

私はあってもいいと思っている。八雲は八雲で総合開発委員会というのをやっている。普段、町から予算とかめったに聞くこともないんだから聞いているうちにいろんなことを思ったりして、やることに

については悪くないと思っている。なかなか一般の人にこんなに説明することは無い。

【萬谷副町長】

新聞で函館市も周辺 3 町村と合併したが、地域審議会を廃止するとこの間新聞記事になっていた。熊石の地域審議会についても合併時に熊石地域の住民の意見が届かないと議会はあるし、総合開発委員会はあるが、熊石地域の声を少しでも町政に反映させたいということで設けた方がいいだろうということで設置された。町長も一定程度の期間が経って地域振興課の方でも見直しを検討したけれども、町長は、地域審議会があった方が声を少しでも聴ける機会を設けた方がいいだろうという判断のもと、残している状況にある。皆さんが特に異論がなければ引き続き残して、地域振興を考える、いい機会なのかなと考えている。

【岩村町長】

情報として、今、道の方で、熊石高校の解体について新年度に予算化されて解体される予定。5,000 万くらいかかる。解体する前になんか考えた方がいいのではないかな。

【野口地域振興課長】

会の方からもそういう声が出ているので、道教委の方と連絡を取り合って予算化や解体のタイミングを確認しながら、情報提供しながら、事業を何かやるのであれば。

【岩村町長】

その辺、同窓会を通して情報を入れて進めてほしい。今のとこの熊石に高校が出来るということはほぼ考えられないだろうが、希望は持たなければならぬ。熊石の人の方が諦めている。八雲町の予算はさっき説明したとおりだが、借金は確かに 130 億円近くあるが、実質返すのは 30 億無い。28 億しかない。貯金は 90 億くらいある。極端な話、昔の熊石の一般会計の予算は 30 億くらいでしょ。その 3 倍くらいは貯金しているんだから、そろそろ皆さんの意見を聞きながら熊石地域の活性化にお金を使っていく時期なのではないか。八雲本町の方はどうかというと、今、国の力を使いながら農業の研修所を作ろうとしている。牧場を作り研修所を作り、回していく。今、林業もそういった仕組みを作り、漁業も、商業も取り組んでいこうとしている。昨日、商工会の役員に話したが、ふるさと納税を使って経営者の育成に取り組んでいきたいと考えている。株式会社を立ち上げて行って八雲の高校生も巻き込んで、農業、漁業、林業、商業などの若い人たちの起業をサポートしていきたい。自分も二十歳の時に会社を立ち上げたが、もうかったと思ったら税金はとられる。物買ったけどお金はない。また銀行からお金を借りなければならぬと思っていた。そういったことからきちんと経営をマネジメントしていけるような人材育成を育ててベンチャー企業を起こしていく仕組みを作りたいと考えている。役場職員も経営的感覚が無いとだめだと考えている。議会でも農業の研修所を作るのにお金を使っていいという風に考えているので、熊石でこういうものを作った方がいいというものが出来れば、お金を生んで持続していく仕組みにしないと、ずーっと町のお金を当てにしても続かない。そういうことをみんなで考えていけたらなと考えている。子の熊石に 1 人でも 2 人でも飯食う種を作っていかなければ、みんなで何か知恵絞っていかねばならない。研修牧場も誰が発想したかと言えば、農家の人たちで、町長どうだべということで、農業法人を立ち上げた。熊石でも何かあれば、そこに町がお金を入れて、熊石が持続できる仕組みを作れば。新幹線の駅から函館まで 10 分、札幌まで 35 分~40 分、そんな距離になる。新幹線が来たら、そこに何か売るものを作る。ちゃんと持続できるお金の使い方を考えたい。

【会長】

熊石地区の若い人が集まって将来を考える団体ってないの。

【岩村町長】

この熊石地域審議会がいい。ここでいろんな意見が出てくればいい。お金はある。みんなの努力で。

【会長】

審議委員会を抜きで？

【岩村町長】

それは審議委員会が終わった後でもいい。

【委員】

熊石の人たちが熊石をどうしたいというのがわからない状態。年配の人たちの気持ちもわからないし、若い人だけじゃなくて、いろんな世代の人たちがそれぞれどう考えているか話す場所が欲しいと思っている。

【萬谷副町長】

活性化プロジェクトの中でそういう議論は出来てないのか。

【委員】

そういう議論はあまりできていない。

【委員】

商工会青年部でそういう話は出ないのか。

【委員】

なかなかでない。

【委員】

じゃあ、そういう話は出ないよね。

【岩村町長】

熊石はだれがやるとかじゃなくて、気づいた人がやるしかない。キノコって知っている？あれ芽を出すときにどうやるか知っている？叩かなければ芽が出てこない。だからそろそろ叩かなければならないと考えている。人のせいにするとか、若い人にやらせるとかじゃなくて、「皆で考えるべ」という話でそのために、町は汗をかく準備は出来ている。

【委員】

考えている人は考えている。

【会長】

商工会の婦人部の集まりはあるが、商工会と、農業と、林業などの団体とかと話す機会がない。だから、そういった団体や議員さんや町職員の皆さんが入った話し合いの場所があった方がいい。あわびフェスにしてもそれぞれバラバラになっているからどこかで話しあった方がいいかなと思う。

【岩村町長】

そういった話し合いも少ない人数の方がいい。20人も集まれば話がまとまらない。5、6人がちょうどいい。志のある人だけ集まるか？でも、いろんな話をしても、明日、仕事してれば忘れてしまうものだ。だから、役場職員に忘れるなと言っている。

【会長】

それではこれで平成30年度第2回熊石地域審議会を終わりたいと思います。本日は誠にありがとうございました。